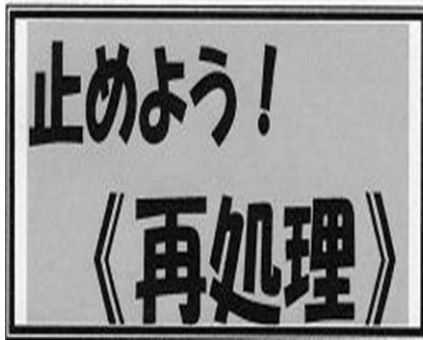


## 三陸の海を放射能から守る 岩手の会

郵便振替 02240-5-102650  
ホームページ《再処理／岩手の環境》  
http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm  
《まった再処理分庫》  
http://briefcase.vahoo.co.jp/kimag



## 《天恵の海》

2012(平成24)年  
12月9日  
第120号  
編集事務局 S.Oshida  
TEL・FAX 019-623-1636

# 子どもたちの甲状腺検診を!



## 岩手県知事へ要請書提出 県内二七市民団体

『子どもたちの甲状腺検査を実施してください』 子どもを持つ親たちの切実な要望を伝えるために、十一月二二日、本会を始めとする市民グループや団体の十一人が岩手県庁を訪れて要請行動を行いました。応対したのは野原勝保健福祉部医療推進課総括課長、工藤啓一郎感染症担当課長ら三人でした。福島県では三万人以上の子どもに甲状腺異常(のう胞や結節)が発見されました。岩手でも早急な対策が必要です。

### 福島の子どもの甲状腺異常をどうとらえるか?

福島の子どもの甲状腺にのう胞や結節が多く発見されたことについて、甲状腺専門医の中から、これまで知りう

### 岩手県の放射線被ばく 対策の経過

- 2011. 3. 25 市民団体が県へ要請書 「至急ヨウ素剤を子どもたちへ優先配布すること」
- 2011. 12. 1 ~12. 3. 2 岩手県 奥州市・一関市などの子ども132人の尿の放射性セシウムを検査。(セシウム不検出は13人)
- 2011. 12. 28 一関、奥州市平泉町が放射性物質汚染対処特別処置法による指定をうける。
- 2012. 2. 6 岩手県放射線内部被ばく健康影響調査有識者会議(平23年度第1回)
- 2012. 3. 2 岩手県放射線内部被ばく健康影響調査有識者会議(第2回)132人の尿検査の結果について「健康への影響は極めて小さい。調査の継続は必要ない。但し今後国の動向も踏まえ、県民へのフォローアップも検討する」と発表。
- 4. 16 県産婦人科医会会長小林高氏ら県へ「子供の内部被ばく検査を継続すべき」との質問状
- 5. 16 県、「特段の状況変化がない限り追加調査の必要なし」と回答
- 6. 2 放射能問題市民交流集会(教育会館 30余グループ約60人)
- 7. 11 岩手ホスピスの会など県へ「子供の内部被ばく検査を継続すべき」との再要請書
- 9. 28 岩手ホスピスの会など、県へ「子供の甲状腺検査・尿中サンプリング調査の検出者の、詳細調査の実施」を再要請
- 10月~12月目途 県 前回132人の尿検査を継続実施中。

早期の甲状腺検査を市民グループの要請事項は次の通りです。

今回の三七市民団体には子どもの被ばくを心配する親や市民たちが結集しました。

訴えがなされています。福島は、本県においても県南の親たちを中心に子どもの被ばくについての不安を増大させています。

- 1、「汚染状況重点調査地域」に指定された一関市、平泉町、奥州市に置いて十八歳未満の子どもたちの甲状腺検査を実施しその結果を保護者に伝えること。プライバシーに留意した上でデータを公開すること。
- 2、岩手県放射線内部被ばく健康影響調査有識者会議を再度開催し意見を求めること。この会議には市民代表を加えること。
- 3、甲状腺障害以外の放射線被ばくによる健康悪化についても、早期の対策を急ぐこと。

**予防医学的早急な対策を**

話し合いの中で野原勝医療推進課総括課長は「検討の上文書で回答する」としました。市民代表からは「福島を検査結果は原発事故の放射性ヨウ素による影響ではないか」「チェルノブイリ事故では約四年後から小児甲状腺ガンが多発した。予防医学の観点から岩手でも早急に対策を実施すべきだ」という意見がなされました。要請行動についてめんこいテレビが夕方ニュースで放送し岩手日報や盛岡タイムスなど数社が報道しました。

**本年度第一回**

**有識者会議開催**

岩手県は本年度第一回の放射線内部被ばく健康影響調査有識者会議を十一月二六日開催しました。会議報告では「子どもの尿中のセシウム調査」の評価方法など話し合われ、甲状腺検査については「国の甲状腺結節性疾患有所見率調査の結果を踏まえて検討することが適切」という意見があった」と記されています。

**尿中放射性セシウム検査**

**岩手県調査**

概ね零歳から十五歳までの一三人を選定。原則として二日以上連続して二リットル以上の尿を溜め、容器ごと回収。

岩手県ホームページ「有識者会議」資料 [www.pref.iwate.jp/view.rbz?nd=2500&of=1](http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?nd=2500&of=1)

セシウム134+137 2011.12.1~13.1 調査	不検出	1Bq未満	1~2Bq未満	2~3Bq未満	3~4Bq未満	4~5Bq未満	5~6Bq未満	6~7Bq未満	総計(人)
放射性セシウム (Bq/l)	13	7	48	31	18	5	8	2	132
放射性セシウム (Bq/日)	13	20	48	33	15	3			132
被検査者の年齢	3~8歳未満	45人	8歳~13歳	55人	13歳~15歳	32人計	132		
被検査者の住所	一関市60人	奥州市36人	宮古市・金ヶ崎町・平泉町	36人計	132人				

**原発と放射能を考える  
シンポジウム  
in山田**



10月27日(土)、豊かな三陸の海を守る会が『原発と放射能を考えるシンポジウム in 山田』を開催しました。大津波被害からの復興作業に多忙な中、山田町中央公民館に参集した約50人の住民は、三陸の海を如何にして大震災被害から復興させ、福島原発事故、六ヶ所再処理工場からの放射能被害から守りぬくのか、5人のパネラーの提起を受け、熱心に意見交換を行いました。

**私を育てた故郷山田、自然豊かな暮らしこそ**  
小林美好さん(主婦)  
子育ては自然豊かな故郷山田でこそと決心し夫とともに帰郷、しいたけ栽培を営みながら環境を守る運動を続けてきました。ところが今回の東京電力の原発事故で大打撃を受けています。シイタケが出荷

**音を絆に「核半島」を包囲しよう**  
山内雅一さん (Peace Island)  
八戸で再処理に反対し「PEACE LAND」というグループをつくり運動しています。毎週金曜日八戸ではサウンドデモをやっています。

**宮城でも海を守る運動**  
佐藤幸恵さん(わかめの会)  
山田生まれですが今は仙台で暮らしています。ドイツやデンマークの環境運動を見て回りました。三陸の美しい自然を、女川原発や六ヶ所再処理工場の放射能で汚してはなりません。  
**岩手でも子どももの甲状腺検査を実施させよう**  
永田文夫さん(岩手の会)  
福島原発事故による放射性ヨウ素は、東日本の子どもたちの甲状腺に濃縮し、これまでは「百万人に一人」という全く珍しい病気であった「小児甲状腺ガン」を多発させる恐れがあります。現在福島県が進めている子どももの甲状腺の聴音波検診では「う胞」や「結腫」を持つ子どもがすでに三万人ほど発見されました。これは事故当初、大量に放出された放射性ヨウ素が原因であると考えるのが最も自然であり、岩手でも早急に、子どももの甲状腺検査を実施し予防原則に立って医療態勢を整える必要がある。

停止となり、焼却処分され、仕事を継ぐ予定であった息子は先が見えませんが、私たちが水の恩恵を受けた農の暮らしそのものが将来への不安と失望に変わり、途方にくれる毎日です。生き方と考え方を大転換させるべきだと思えます。  
**思いがけず シュウリ貝が大発生**  
上林寛さん(漁業者)  
山田湾を放射能に汚されては堪らない。だから運動を続けています。大津波のあと被害は甚大で漁業者は困難を乗り越えてホタテ養殖の復旧に立ち向かっている。今、山田湾の水は大変きれいだ。だが、思いがけず大量のシュウリ貝の付着に見舞われている。でも、この豊かな生命を育てる山田湾で再び養殖を復活させる。  
**音を絆に「核半島」を包囲しよう**  
山内雅一さん (Peace Island)  
八戸で再処理に反対し「PEACE LAND」というグループをつくり運動しています。毎週金曜日八戸ではサウンドデモをやっています。

音楽で反核運動を盛り上げよう。  
宮城でも海を守る運動  
佐藤幸恵さん(わかめの会)  
山田生まれですが今は仙台で暮らしています。ドイツやデンマークの環境運動を見て回りました。三陸の美しい自然を、女川原発や六ヶ所再処理工場の放射能で汚してはなりません。  
**岩手でも子どももの甲状腺検査を実施させよう**  
永田文夫さん(岩手の会)  
福島原発事故による放射性ヨウ素は、東日本の子どもたちの甲状腺に濃縮し、これまでは「百万人に一人」という全く珍しい病気であった「小児甲状腺ガン」を多発させる恐れがあります。現在福島県が進めている子どももの甲状腺の聴音波検診では「う胞」や「結腫」を持つ子どもがすでに三万人ほど発見されました。これは事故当初、大量に放出された放射性ヨウ素が原因であると考えるのが最も自然であり、岩手でも早急に、子どももの甲状腺検査を実施し予防原則に立って医療態勢を整える必要がある。